

# 図書だより No.8

多摩市立東愛宕中学校  
令和4年 2月15日発行  
学校図書館司書 宮居 未知

北京オリンピックも終盤に近づき、連日さまざまなドラマが繰り広げられ胸が熱くなる日々です。みなさんは、どんな競技や選手に注目していますか？3月4日からはパラリンピックも始まります。



## 図書委員1年生

### ほっこりあったまる本の展示

寒い時期にココロもカラダもあったまる本を図書室から選んで展示しています。土鍋の中に本やぬいぐるみを置いていたり、展示の仕方にも注目です。

## 図書委員2年生

### 先生方のおすすめ本紹介コーナー

先生方に中学生に読んでほしい本の紹介文を書いていただき、図書室内に掲示しています。

## 図書委員3年生

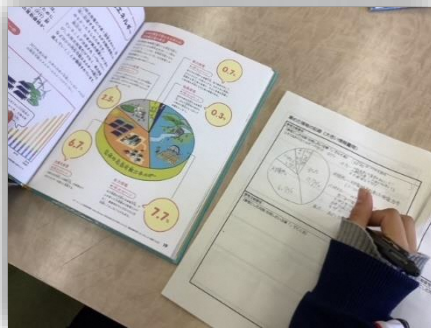
### 本のスタンプラリー

用意した台紙に1冊借りるごとにスタンプを押していき、5個たまれば手作りしおり、10個ならブックカバーをプレゼント！

## 1年総合SDGs×図書室

1年総合でSDGsを踏まえた環境学習が1月中旬からはじまりました。

図書室からは、6ステップで学ぶ探究学習として、ワークシートを活用するグループ学習を提案させていただきました。



本とインターネットのメリットデメリットを理解したうえで、本とiPad両方を活用しています。

## 第13回 子ども読書まつり ほんともフェスタ ~ほんはともだち ほんとにともだち~

子どもの読書活動の推進をテーマに、子どもから大人までのすべての方に向けて、講演会や特別お話し会、多摩市の子ども読書活動を紹介する展示を開催しています。

★期間 令和4年2月26日(土)~3月31日(木)

小林寅詰さん(東邦大学 看護学部 感染制御学教授)や、松井エイコさん(壁画家・紙芝居作家)

による講演会が予定されています。興味のある方は先日学校から配布されたチラシか、多摩市や多摩市立図書館のホームページから申し込みましょう。いずれも定員があり先着順で、2月24日(木)午前9時から事前申し込みスタートです！東愛宕中図書室の紹介も展示されています。

## 新着図書

### <知識の本>

分類番号	書名	著者・編者・監修者	出版社
015ヒ	100万回死んだねこ覚え違いタイトル集	福井県立図書館	講談社
146ア	不安・イライラがスッと消え去る「安心のタネ」の育て方 ポリヴェーガル理論の第一人者が教える47のコツ	浅井咲子	大和出版
159サ	ことばのおまもり 自己肯定感を育む28の言葉	齋藤孝	幻冬舎
376ブ	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2	ブレディみかこ	新潮社
498カ	部屋も頭もスッキリする！片付け脳	加藤俊徳	自由国民社
726ヤ	ぼくのお父さん	矢部太郎	新潮社
780ジ	ジュニア選手のための夢をかなえるスポーツノート活用術	佐藤雅幸	メイツ出版
783オ	スポーツ記者が見た 大谷翔平栄光の軌跡	脇本深八	ジーウォーク
783ハ	あの夏の正解	早見和真	新潮社
796フ	藤井聡太のいる時代	朝日新聞将棋取材班	朝日新聞出版

### <文学の本>

分類番号	書名	著者・編者・監修者	出版社
913ア	月曜日の抹茶カフェ	青山美智子	宝島社
913ア	猫のお告げは樹の下で	青山美智子	宝島社
913ア	鎌倉うずまき案内書	青山美智子	宝島社
913イ	ペッパーズ・ゴースト	伊坂幸太郎	朝日新聞出版
913イ	おまえなんかに会いたくない	乾ルカ	中央公論新社
913オ	とにかかくにもごはん	小野寺史宜	講談社
913カ	ソードアート・オンライン 26	川原礫	KADOKAWA
913コ	文豪中學生日記	小手鞠るい	あすなろ書房
913シ	かぞえきれない星の、その次の星	重松清	KADOKAWA
913チ	ガラスの塔の殺人	知念実希人	実業之日本社
913ツ	闇祓	辻村深月	KADOKAWA
913ト	7.5グラムの奇跡	砥上裕将	講談社
913マ	星を掬う	町田そのこ	中央公論新社



#### 『藤井聡太のいる時代』 朝日新聞将棋取材班著 朝日新聞出版

つい先日、王将戦を4戦全勝で制し、19歳6か月という史上最年少で5冠を達成した藤井聡太。将棋界にある8つのタイトルのうち過半数となる5冠を獲得したのは彼を含めて4人のみということからしても、その偉業ぶりがうかがえます。本人、家族、周辺棋士へ取材し、生い立ちから驚異の公式戦29連勝、タイトル獲得までを追いつ、強さの秘密に迫った作品。個人的には、お母様の影響を受けたという愛読書に興味津々でした。

#### 『あの夏の正解』 早見和真著 新潮社

2020年の夏の甲子園が中止されたのは記憶に新しいと思います。本作は幼い頃からの憧れの舞台を、コロナという理不尽な形で奪われた高校3年生の選手たちの胸の内に迫ったルポルタージュです。甲子園を失った最後の夏とどう折り合いをつけるのか、選手ひとりひとりが導いた「この夏の正解」に胸を打たれ、私たちも学ぶものがあると感じました。

